

34. 神浦ダムサイトの結晶片岩

地域 西彼杵郡大瀬戸町神浦ダムサイト一周

交通 長崎バス 西彼外海線, 神浦下車

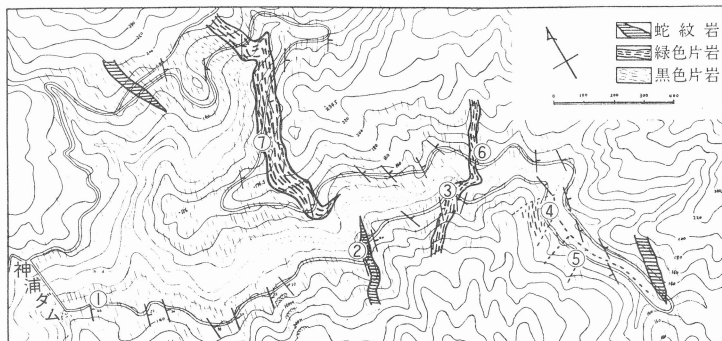
地形図 神浦 (1/25,000)

歌に歌われ、ひときわ詩情をそそる長崎の雨もひとたび渇水期が訪れると、その恵みも消えてしまい長崎市の台所は断水に悩まされる。神浦ダムはこの長崎市の上水道用水を確保し、あわせて西彼杵半島の治山治水と産業開発のための多目的ダムとして昭和45年に完成したダムである。

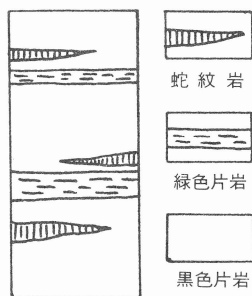
神浦は長崎よりバスで2時間程、佐世保より2時間半程の所で、五島列島をのぞむ角力灘に注ぐ神浦川の上流をせき止めてダムが作られている。この貯水池一周のルートは道路が新しいためひじょうに露頭がよく、静かな湖畔の楽しい巡検コースである。

ダムサイト南端の事務所わき①の露頭には新鮮な黒色の点紋片岩が露出し5 mmほどの点紋がよく観察される。片理はN18° E, 16° Eの走向と傾斜を示し比較的安定している。この黒光りした黒色片岩は所によっては薄い石英脈をはさんでいる。①より道路にそって約1 kmほどの距離までは同じような岩石の露頭が続き、岩石標本の採集や観察に適している。②のカーブに蛇紋岩の露頭があり、産状は黒色片岩の片理に対してシート状の貫入がみられる。脂肪光沢を示す濃緑色の蛇紋岩の東側では、周辺の黒色片岩との間に片理に平行に約3 mの滑石帯が観察される。西側では滑石帯は見当たらないが断層によって接していると考えられる。

③付近に行くと緑色片岩が初めて現われ、この緑色片岩は点紋を多く含むものと極めて剥離性の強い片状の構造をもったものが互



外海町神ノ浦ダム周辺地質図



神ノ浦ダム周辺地質柱状図

層の状態をなし、原岩の岩相の違いを示唆しているようである。

④では畳何枚も敷ける広さの傾いた片理面を見せた緑色片岩があり、その線構造のすばらしさは他に類を見ないほどである。

貯水池の南部すなわち最も奥まった付近⑤も全体的には黒色片岩でしめられ、片理の走向、傾斜が乱れ、小さい断層が各所に見られる。

⑥まで同じような黒色片岩が分布し、⑥で③と同じような緑色片岩が現われてくる。

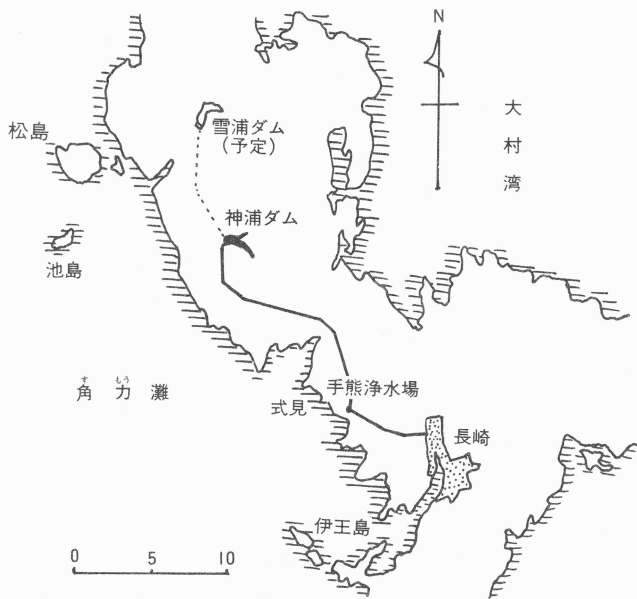
⑦は緑色片岩の大露頭がある。肉眼的にも深緑の片岩に磁鉄鉱の正八面体の単結晶をたくさん含んだ部分がある。また、針状結晶である濃紺色のらんせん石や、淡緑色の緑簾石を多く含んだ緑簾片岩があり、露頭が新しいため標本はりっぱなものが採集できる。

ここの緑色片岩の層は黒色片岩にはさまれたレンズ状の層であり最大層厚で60mはこえない。この層は上位の方で緑簾石に富み下位の方で緑泥石に富むようである。

岩石薄片を作り顕微鏡で観察すると、石英、絹雲母、長石、緑泥石、緑^{れん}簾石、らんせん石などを含み、特にらんせん石の深青色の針状結晶は印象的である。

このような変成鉱物などは結晶する時の生成条件が決まっておりらんせん石型は圧力1万気圧、温度300℃以下であるから上記の岩石は低温高圧型の広域変成作用によりできたものといえるようである。またこれら、らんせん石片岩や緑^{れん}簾角せん片岩は凝灰岩を原岩とする中程度変成岩に属する。

この新しい貯水池を一周すると色々な結晶片岩が観察できる。一周8kmの道も緑の山と澄んだ空気の中では短い楽しいコースになるであろう。
(西村暉希)



神浦ダムから長崎市までの導水路